

麒麟ビール神戸工場と県立人と自然の博物館 見学。

旅程とスケジュール：2019年3月28日(木) 8:50 JR 三宮駅東口改札前集合

9:10 神姫バス三宮バスターミナルから神姫バス、三田特急学園7丁目行きに乗車

➡9:56 フラワータウンセンター手前の弥生が丘5町バス停下車、➡10:00

徒歩で麒麟ビール神戸工場へ

➡10:35 麒麟ビール神戸工場到着

10:40~11:40麒麟ビール工場内の見学と各種ビールの試飲。

13:00ごろ フラワータウンセンターまで麒麟ラガーバスで移動し、三田フラワータウン内サイゼリアで昼食。

13:30分過ぎ 県立 人と自然の博物館に移動し、館内の見学。

15:00 フラワータウンセンター発 三宮バスターミナル行き神姫バス特急に乗車。

16:00 三宮バスターミナルで解散。



麒麟ビール工場は見学者募集時30名以上となり(最終的に17名)、送迎ラガービールバス定員オーバー、急遽工場最寄り駅バスから徒歩で訪問することに変更。



工場最寄りバス停から徒歩で麒麟の工場まで約2km。17名での「歩き」風景。



黙々と麒麟ビール神戸工場を目指します。マスク姿で住宅街を通過。

こんな住宅街に麒麟ビール工場があるのでしょうか?少し不安。





カルロス・ゴーン、麒麟ビール神戸工場へ現れる???そして工場見学者17名の申し込み。



整列して、工場内の案内ガイドであるビデオメ

ッセージルームへ、そこでビールが出来るまで

のあらすじが紹介されました。



麒麟ビールの製造に欠かせない素材であるホップ

と麦芽の展示されており、自由に触ることも

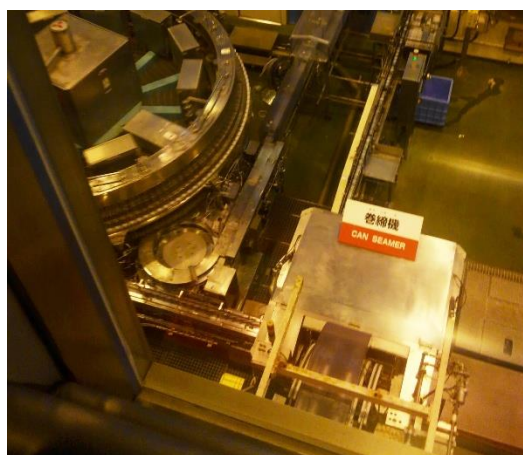
麦芽の味見も可、大変香ばしく良質な麦芽の味わいが

印象的でした。





懐かしい麒麟ラガービールラベルの
歴史「最初に飲んだラベルは
えーっと？」



次の見学コーナーでは、良質な麦芽を発酵させた糖化後の麦汁のテースティング、麦汁は麒麟ビールの美味しさの秘密とされている一番搾りと2番絞りを味わうことがきました。しかしこの段階ではまだ発酵を終わってませんからアルコール成分は含まれません。ここのビール工場見学を訪れて、解った事、ビールの製造って、麦芽を一度発芽させる・発芽の根を除去・乾燥・粉碎し、麦のおかゆのような「もろみ」を作る・ろ過・発酵・低温熟成・再度ろ過の工程を経て、製品であるビールになるそうです。また、麒麟ビールの製品は一番搾り+二番絞り麦汁のブレンド製法が採用されているとのことでした。



麒麟一番搾りが全自動でアルミ缶に詰められ、密閉・パッケージングから出荷まで、完全自動の一環工程が見学できます。

いよいよ待望のキリンビールの試飲です。試飲コーナーでは、キリンビールの女性社員が3種類のビールをそれぞれに提供してくれました。まずはキリンラガービールをグラスで、次にハートランドそして最後にキリン一番搾りを頂き、ご親切に袋入りナッツの「つまみ」もご馳走になり、満足でした。



最後にキリンビール工場内のスポットエリアで集合写真を納め、帰路はキリンラガー送迎バスでフラワーパークに到着。そして、次の目的地「人と自然の博物館」へ移動。

移動の途中、フラワーパークエリアのファミリーレストラン「Saizeriya」に立ち寄り、各自

思い思いのワンコインメニュー昼食となりました



三田フラワータウン駅近くに位置する「人と自然の博物館」を訪れました。この博物館では「人と自然の共生」をテーマに平成4年（1992年）に設立された兵庫県立の自然史系博物館だそうです。

丹波市山南町で発見されたタンバティタニスの恐竜化石や古代の小動物から昆虫などの展示と色々な蝶、水性生物の生態系とその多様性の仕組み等が解説されていました。

「人と自然の博物館」の前で2回目の集合写真。





「人と自然の博物館」で、いろいろな蝶の標本を見学しながら、何か「少年時代の思い出」などがあるのでしょうか？





「人と自然の博物館」には、たくさんの標本が納められており、同じ生物でも生活する場所によって色や形が少しずつ違うことなどが感じられます。更に、いろいろな展示標本から緯度や軽度、標高、時代といった空間の広がりだけでなく、時間の流れも併せて比較検討できるエリアと感じました。

ぜひとも多くの小・中・高校生や大学生にもぜひ一度はこの博物館を訪れてもらいたいと思います。

標本に関心がある人もない人も、一度訪れると標本の見方がきっと変わるように思われました。